危機の時代を生きる　希望の哲学 二

政治の目的は幸福の最大化 今求められる「中道」の理念

かばしま・いくお　1947年、熊本県生まれ。東京大学名誉教授、同大学先端科学技術研究センターフェロー、前熊本県知事。79年、米ハーバード大学大学院修了。博士号（政治経済学）を取得。専門は投票行動と政治参加。筑波大学教授、東京大学教授を経て、2008年から24年まで熊本県知事を務めた。著書に『戦後政治の軌跡』（岩波書店）、境家史郎との共著に『政治参加論』（東京大学出版会）など。

3面から続く

支持参加モデル

――政治学者としては、投票行動や政治参加を専門に、研究を重ねてこられました。著書『政治参加論』では、高度成長期において、創価学会が政治に参加した意義についても論じられています。

もともと政治学では、ある国において経済発展が進むと、そこに政治的不安定が生じるとされてきました。政治学者のサミュエル・ハンチントンは、経済発展によって、人々の間の不平等が拡大し、社会的不満が高まることで政治的不安定が発生すると説明しています。

しかし、戦後の日本は、ハンチントンの理論通りにはなりませんでした。高度成長期にかけて、驚異的な経済成長が実現されただけでなく、経済格差の是正と政治的安定性の維持が、同時に達成されたのです。こうした戦後日本の政治・社会の特徴を「支持参加モデル」として分析しました。

日本の特徴は、「持たざる者」が比較的多く政治に参加したことです。アメリカなどでは、所得の高い人ほど政治に多く参加していて、低所得層は政治参加しづらいため、経済的不平等が是正されませんでした。ところが日本では、所得の多少にかかわらず、政治に参加する傾向があり、結果的に政治が安定し、経済発展と経済的平等が両立されたと考えます。

日本の特徴の一つとして、1967年に労働者層の投票率が大きく上昇しました。その一因として、同年から公明党が衆議院議員選挙に進出したことが挙げられます。

当時は、集団就職によって地方から都市部に人口が流入しました。こうした人々の多くは、社会的に孤立し、労働組合員としても組織化されず、政治的資源を欠いた状態にあったと考えられます。つまり、政治への参加志向は弱いはずでした。そうした中で、創価学会は独自の共同体として機能し、そうした多くの人々をつなぎ、政治への参加を促しました。

多くの人の政治参加によって、政府の経済政策が格差を是正し、平等志向を強めることになった側面があります。創価学会の活発な政治参加は、日本の経済・社会の安定した発展に、大きく貢献したと思います。

1964年11月17日に開催された公明党の結成大会（東京・両国の日大講堂で）

公共心を養う

――創価学会は一貫して「中道主義」を掲げてきました。中道とは単なる〝中間〟や〝折衷〟ではなく、「道に中る」と読むように、本質や根源に迫る姿勢です。また、対立を高次に引き上げ、解決を模索することです。こうした変革のダイナミズムである中道主義は、複雑化する現代社会の中で、どのような価値を発揮するでしょうか。

中道は、今の日本政治において、最も重要な理念ではないでしょうか。

国民の幸福を実現するためには、政治が極端に偏る場合には、ブレーキ役になって抑制する働きが必要です。逆に、福祉政策に前向きでない場合には、アクセル役として背中を押すことが求められます。そうしたことができるのは、中道の理念を持った皆さんです。

蒲島さんの主な著書

中道は、今の日本政治において、最も重要な理念ではないでしょうか。

国民の幸福を実現するためには、政治が極端に偏る場合には、ブレーキ役になって抑制する働きが必要です。逆に、福祉政策に前向きでない場合には、アクセル役として背中を押すことが求められます。そうしたことができるのは、中道の理念を持った皆さんです。

現実の政治に目を向ければ、現在は少数与党です。公明党には、党員・支持者と共に党を再構築するような気概で、政治に取り組んでいただきたい。同時に、皆さんは、政治と国民の強い相互信頼に基づく民主主義を深めていっていただきたいと思います。

私はこれまでも、〝低投票率の中でも積極的に選挙の重要性を訴える皆さんに、関心を持ってきました。

政治学には「エリート民主主義」と「参加民主主義」という、二つの理論があります。前者の立場では、大衆は民主的市民としての能力を欠いているとされ、政治の運営はエリートに任せるべきであるとされます。

一方、参加民主主義では、市民は政治参加によって、より優れた民主的市民に育ち、ひいては政治システムも安定するとして、政治参加の教育効果に注目します。私は、こうした参加型の民主主義について研究してきました。

人々は政治に参加する過程で、自分だけの「私的な利益」と、より多くの人々の「公的な利益」がつながっていることを実感します。参加の重要性は「利己的な個人」が「公共心に富む個人」に変化していくという、教育効果にあるのです。

創価学会はもともと「創価教育学会」としてスタートしていますから、学会の皆さんは、教育によって人がより良く成長できることを実感されているのではないでしょうか。

一方、20世紀を振り返ると、政治に無関心で、他人の意見に非寛容な人々によって、個人より国家を優先する「全体主義」が支持されてしまった歴史があります。

より良い民主主義のためには、参加を通してよりよい市民が育つことが必須です。政治における「他者を思いやる「公共性」」は、参加しなければ身に付きません。宗教活動への参加も、そうした公共性を養う側面があるでしょう。

参加によって公共性が養われ、参加することに喜びを感じ、より良き市民に成長する――それが政治参加論の原点です。だから私は、創価学会の皆さんが、喜びをもって活動されている姿に感銘を受けるのです。

皆の幸福のため、より良い民主主義のために、公共性を持った人々が政治に関わり続けていくことが、何よりも重要です。

「危機の時代を生きる」シリーズが好評発売中

『危機の時代を生きる』シリーズが好評発売中である。本紙の連載をまとめた潮新書のシリーズで、これまでに3巻が発売され、見田宗介氏、ジェフリー・サックス氏、姜尚中氏ら各界を代表する識者へのインタビュー等を収録。気候変動、貧困、紛争等の課題が山積する現代にあって、人類が進むべき「持続可能な未来」へのヒントを探る。

潮出版社刊。各巻1100円（税込み）。全国の書店で購入・注文できます。聖教ブックストアのウェブサイトでも受け付け中。電話＝（0120）983563（午前9時～午後5時、土・日・祝日を除く）。※電話の場合、支払いは代金引換のみ。ＦＡＸでの注文はできません。

コンビニ通販サイト「セブンネットショッピング」「HMV&BOOKS online」での注文、受け取りも可能です。

左の画像から、「危機の時代を生きる」識者インタビューの過去の連載の一部をご覧いただけます。

ご感想をお寄せください　kansou@seikyo-np.jp　ファクス 03-5360-9613

常に“社会・お客様・未来に向けて”必要とされる会社へ
一人ひとりのお客様や、移り変わる社会、そして将来の多くの要望や期待に応えられる企業になるために、
真摯に技術力を磨き、高品質な製品を提供できる会社を目指します。
« Quattro S »の実践
◆ Smile：お客様から信頼され、ご満足いただける製品をお届けすることで、製品に関わる全ての人々を笑顔にします。
◆ Safety：製品の設計・製作・納品まで、安全性を重視したものづくりを通して、お客様に安心をお届けします。
◆ Supreme：これまで積み上げてきた経験と技術を活かした提案力で、世界にひとつしかない最高品質の製品をご提供します。
◆ Sustainability：経済・社会・環境に与える影響を考慮し、持続可能な事業活動を心掛けていきます。
日本全国の小・中・高、公共施設、養護学校、専門学校他 納入実績1万台突破!!
・防球ガード（天吊型）
エアコン用防球ガードは、ボール等が衝突した際にエアコン本体を破損、故障を防ぐための製品。
多くの人が集まる場所でも安心して使用できる、機能性と安全性の両立を重視した防球ガードとなっています。
・多言語拡声装置
メガスピーク　メガスピークハンディ
メガスピークは、現場に直接呼びかける、拡声器型で災害時でも利用可能。
メガスピークハンディは、アンプ接続型ハンディタイプで、館内放送機器や消防車の車載アンプと接続することで、様々な場所での使用可能。
【その他、ソフトウェア開発】
・AMX
タッチパネル画面の構成や制御ソフトの開発
・AWS
多言語同時翻訳システムのソフト開発
【ホームページ】
特注製品設計・システム設計・製作（映像・音声・制御）・多言語による拡声装置・案内表示装置の製品製作・各種金具設計・製作（防球ガード等）
EDISON HARDWARE エジソンハードウェア株式会社
［本 社］〒003-0802 札幌市白石区菊水2条3丁目1-5 TEL:011-598-7833 FAX:011-598-7633
［東京営業所］東京都小平市［サテライトオフィス］東京都渋谷区渋谷3-6-2 エクラート渋谷ビル5F THE HUB渋谷
https://www.edison-hw.co.jp